

学校教育目標 「心豊かで自立して生きる生徒」

碧  
へき

心  
しん



令和5年度 第10号  
令和6年2月1日発行

セーフスクール認証校

秩父市立秩父第二中学校

二中ホームページでも閲覧できます

令和5年度 3つの重点

①授業を大切にしよう ②学校をきれいにしよう ③「気持ち」を行動や態度で示そう

## 箱根駅伝から学ぶ～受験期を迎えて～

校長 横田 健男

令和6年が始まり、1ヶ月が経過しました。月日が経つのが、年々はやく感じるようになってきました。今年も、もう2月です。

さて、3学期は受験のシーズンです。1月には私立高校の受験がスタートしました。二中生も、進路決定のために受験しています。ぜひ、自分の希望を叶えて卒業してほしいと思います。

ところで、令和6年1月2日・3日には、毎年恒例となっている「箱根駅伝」が開催されました。前日の元日には、能登半島地震が起こり、開催されるか不安もありましたが、例年通りに開催されました。戦前の予想では、駒澤大学1強と言われていました。私も駒澤大学が優勝するのだらうと思ってテレビ観戦していました。しかし、結果は青山学院大学が総合優勝を果たしました。最近10年間で7度の優勝を誇る青山学院の強さの秘密は何だらうと、興味をもちました。

青山学院大学陸上部の原晋監督は、箱根駅伝の1ヶ月ほど前に、作戦名を発表します。今年は、「負けてたまるか大作戦」という作戦名でした。なぜ、毎年作戦名を発表するのか、原晋監督の著書から探ってみました。

原晋監督は、次のように語っています。

「作戦名は、ふざけているように思われたりもしますが、あれはわりと真面目に考えているのです。エントリメンバー発表日に、もう一度チームを一枚岩にするためにつくっているようなもの。その作戦名に象徴される気持ちで、残りの3週間で戦っていこうという、チームに向けた檄（げき）でもあるのです。第89回大会の“Z大作戦”に始まり、初優勝時の“ワクワク大作戦”など、作戦名を発表すると、青学大チームに注目が集まります。注目が集まるということは、選手のやる気につながる。見られて恥ずかしくないように、やはり選手も一生懸命に準備するのです。」

私は、「名将と呼ばれる方は、いろいろと計算されているんだな」と思いました。もちろん、普段のトレーニングの充実があってこそその作戦名の効果だとは思いますが……。

受験期を迎えて、子供たちにはプレッシャーもかかってくるものと思います。それをはねのけて、受験本番で実力を発揮してほしいと思います。

「負けてたまるか大作戦」にあやかり、栄光をつかみましよう。